

早わかり！ 単元計画の作成手順

～小学校 総合的な学習の時間 第4学年
「川的美しさを取り戻そう」を例にして～

1. 単元の目標を作成する

【A小学校における総合的な学習の時間における内容のまとめ（例）】

各学校の総合的な学習の時間の目標及び内容は、学習指導要領が定める目標を踏まえて定めるとされ、各学校の全体計画に明記しています。

この「内容のまとめ」を踏まえて具体的な学習対象や学習活動を定め、教師が意図やねらいをもって作成するのが単元計画です。

ここでは、住吉川的环境とそれに関わる人々を学習対象として単元計画を作成しています。

内容のまとめ			
探究課題	探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
身近な自然環境と環境問題	<ul style="list-style-type: none"> 生物はその周辺の環境と関わって生きていることを理解する。 調査活動を、目的や対象に応じた適切さで実施することができる。 環境と生物とが共生していることへの理解は、自然環境とそこに生息する生き物との関係を探究的に学習してきたことの成果であることに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の自然環境への関わりを通して感じた関心をもとに課題をつくり、解決の見通しをもつことができる。 課題の解決に必要な情報を、手段を選択して多様に収集し、種類に合わせて蓄積することができる。 課題解決に向けて、観点に合わせて情報を整理し考えることができる。 相手や目的に応じて、分かりやすく表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向け、自分のよさに気付き、探究活動に進んで取り組もうとする。 自分と違う意見や考えのよさを生かしながら、協働して学び合おうとする。 地域との関わりの中で自分のできることを見つけようとする。

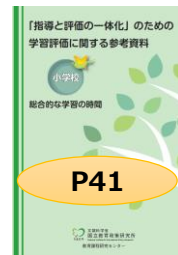


(1) 「内容のまとめ」をもとに、単元全体を見通して、単元の目標を作成する。

①住吉川的环境について調べたり、その保全に向けた活動に協働して取り組んだりすることを通して、②環境保全に関する具体的な取組について考え、③環境を守る活動を続ける人々や組織の意図や願いを理解するとともに、④住吉川とのつながりを意識しながら行動したり生活したりできるようにする。

この例では、4つの要素を構造的に配列して作成しています。

- ①探究課題を踏まえた単元において 中心となる学習対象や学習活動
- ②単元において重視する「知識及び技能」
- ③単元において重視する「思考力、判断力、表現力等」
- ④単元において重視する「学びに向かう力、人間性等」



2. 単元の評価規準を作成する

(2) 「内容のまとめ」ごとの評価規準をもとに、具体的な学習活動における目指すべき児童の学習の姿を想定し、単元の評価規準を作成する。

単元の評価規準を作成する際には、単元で行う学習活動やどのような資質・能力を重視するかによって、具体的に記述することが求められます。

【単元の評価規準】(例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①住吉川的环境には、独自の特徴があることを理解するとともに、その環境を後世に残していこうと活動を続けている人や組織の存在、思いに気付いている。</p> <p>②住吉川にすむ生物の状況を捉えるために、生物種や生息環境に応じた方法でフィールドワークを実施している。</p> <p>③住吉川的环境と自分たちの生活には関連があると理解できるのは、川とそこに生息する生き物との関係を探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。</p>	<p>①住吉川の上流と中・下流の様子と比較から、河川の状況と生物との関わりについて課題を設定するとともに、解決に必要な調査方法を明確にしながらいフィールドワークの計画を立てている。</p> <p>②住吉川の現状をよりよく理解するために必要な情報を、調査する対象に応じた方法を選びながら収集している。</p> <p>③住吉川的环境を守る活動を進めるために、事象を比較したり関連付けたりして理由や根拠を明らかにし、具体的な活動を決定している。</p> <p>④川的环境保全に向けた自分の考えを、表現方法の特徴や表現の目的に合わせて分かりやすくまとめている。</p>	<p>①住吉川とそこに住む生物の関係を明らかにするという目的に向け、自分自身で設定した課題の価値を理解している。</p> <p>②自分と異なる意見や考えを生かしながら、協働的に探究活動に取り組んでいる。</p> <p>③自分と川や地域の人々等とのつながりに気付き、地域の活動に参加するとともに、地域のためにできることを考え行動している。</p>

3. 指導と評価の計画を作成する

「単元の評価規準」の指導計画への位置付けについては、総括的な評価を行うためにも、児童の姿となって表れやすい場面、全ての児童を見取りやすい場面を選定することが大切です。



【指導と評価の計画（全70時間）】の例

小単元名	ねらい・学習活動	知	思	態	備考 (評価方法)
1 住吉川の様子をさぐる。 (15時間)	・川の中流、下流、上流のそれぞれを探検し、それぞれの特徴をまとめる。 ・ホタルがいる上流の様子と、油や泡、ゴミなどがある中・下流の様子を比較する。			①	・行動観察 ・記録シート
	・比較から生じたギャップから問題状況を捉え、「川的美しさを取り戻そう」という単元を通じた課題を設定する。		①		・発言内容 ・課題カード
2 住吉川的美しさを取り戻すための活動を考えて実行しよう。 (35時間)	・川的美しさを取り戻すための活動を進めるために、必要な情報を川の調査や周辺住民へのインタビューから集める。 ・川の環境を守る取組を進めている「ホタルを増やす会」の人の話を聞く。	②	②		・行動観察 ・調査シート
	・調査したことや聞いたこと等を整理して、川的美しさを取り戻すための具体的な活動を考える。		③		・発言内容 ・表現物
	・川的美しさを取り戻すために考えた活動を実行する。			②	・行動観察 ・取組カード
3 地域とともに活動を行い、これからの自分たちの行動について考えよう。 (20時間)	・様々な人や組織が住吉川の環境保全に関わっていることを振り返る。	①			・発言内容 ・振り返りカード
	・地域の人に川への関心を高めてもらうための活動を企画する。			③	・発言内容 ・ワークシート
	・家庭でできる川を汚さない方法を伝える、川掃除会を開催する、「ホタルを増やす会」の活動に参加するなど、実行に向けた準備を進める。		④		・発言内容 ・ワークシート
	・今後の自分たちと地域との関わりや環境との関わりについて、これまでの活動を振り返ってまとめる。	③			・発言内容 ・作文カード

4. 単元の指導計画（指導と評価の計画）をもとに、本時の評価規準を具体的に作る

地域の住吉川を探検する体験活動を通して、子どもたちが川の問題状況を把握し、そこでの気づきを出し合い共有する中で、自分たちが解決を目指す課題をつくり出すことをねらった場面の評価について考えてみます。

評価規準「思考・判断・表現①」

住吉川の上流と中・下流の様子を比較から、河川の状況と生物との関わりについて課題を設定するとともに、解決に必要な調査方法を明確にしながらいフィールドワークの計画を立てている。

探検を実施

【A児の課題カードの記述】

住吉川のそばを歩いていると、油がういていたり、まわりにゴミが落ちていたりして、よごれていることが分かりました。別の日に、家の人や友達、先生といっしょに川の上流に行ってみました。すると、たくさんのホタルが飛んでいました。そこにはホタルのほかにもいろいろな生き物がいました。川の上の方にだけホタルがいたので、ホタルはどんなところに住んでいるのだらうと思いました。

A児は、住吉川の探検を通して川が汚れている状況を捉えています。さらに、川の上流ではホタルが見られたことから、生き物の存在をもとに川の状態の違いを捉えています。川やホタルの様子について興味をもち始めた段階ですが、「河川の状況と生物との関わりについて課題をつくりだした」段階には至っていません。多くの児童でこのような学習状況が見られたことから、後日、ホタルの生態を調べる学習活動を設定することとしました。

児童の学習状況から単元計画を変更し、ホタルの生態について調べる学習活動を設定

【A児の課題カードの記述（振り返り）】

ぼくたちはホタルが住む場所や食べ物などについて調べました。ホタルの幼虫はカワニナを食べます。このカワニナがきれいな川の底に住んでいることがわかりました。たんけんした川の近くに、川をきれいにしている活動をしている人たちがいることがわかる看板がありました。また、「ホタルを増やす会」があることもわかりました。ぼくも、ホタルをもっと増やすことができるように、よごれている今の住吉川を自分たちの力できれいにするためにできることをやってみたい、と思いました。そのためには、ホタルが住んでいる場所とそうでない場所の違いをもっとくわしく調べなくてはなりません。ぼくは、えさになるカワニナが住んでいる場所の水温や川底の様子について調べると、ホタルとの関係が分かると思うので、調べようと思います。

期待する児童の姿に迫るための学習活動を設定するとともに、児童の発言や振り返りなどから、学習状況を把握することが大切です。